The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『未来共創』発刊にあたって
Author(s)	渥美, 公秀
Citation	未来共創. 2020, 7, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76145
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

『未来共創』発刊にあたって

雑誌『未来共創』は、2016年度に大阪大学大学院人間科学研究科に設置された附属未来共創センターが発刊するジャーナルである。同時に、それは、2013年度から博士課程教育リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」が発刊してきたジャーナル『未来共生学』を発展的に受け継ぐものでもある。創刊号となる本号は、『未来共生学』第7号という位置づけである。このことは、未来共生プログラムが2018年度をもって一旦終了し、今年度から人間科学研究科に移管され、附属未来共創センターにてプログラムを継続していくことになったということを直接の契機としている。

附属未来共創センターは、人間科学部・大学院人間科学研究科の学生や教員が世の中の人びとと共に未来を創っていくことをめざし、その双方をつなぐ、つなぎ目の役割を担っている。共に創られる未来は、多様な人々が共に生きる未来である。言い換えれば、センターは、未来共生という状態を目指して、共創を促進していく場である。『未来共生学』の最終号となった前号（第6号）は、「未来共生を構想し、実現するための試行錯誤は、これからも続く」という言葉で締めくくられている。実は、『未来共創』は、その試行錯誤を行う場であり、『未来共生学』をしっかりと引き継いでいく。その上で、独自の企画も盛り込んでいく。今号では、附属未来共創センターで始めた2つの研

究会―「共創知研究会：共創とは」と「テーマ研究会：インクルージョンと共生」―に対応した2つの特集を掲載している。

附属未来共創センターが担う共創は、学生や教員が大学の専門知や統合知を世の中に単にわかりやすく伝えるということではない。逆に、学生や教員が世の中から学ぶということだけでもない。共創とは、文字通り、大学と市民が共に創っていく過程のことである。もちろん、この過程を対象とした未来共創学はまだないし、そもそも学とならなければならないわけでもない。そこで、雑誌名から学を省くことにした。

従来の学術雑誌という内容や形式、あるいは、学という言葉にとらわれることなく、より自由により開放的に編集していきたいと考えている。当面は、編集委員会が企画した特集を掲載し、大学院生たちが投稿した論文や研究ノート等を掲載していくが、より幅広い書き手と読み手を獲得していけるよう工夫を重ねていきたいと考えている。まさに、この雑誌を作っていく過程こそが共創の一つなのだから。

2020年3月19日

『未来共創』編集委員会委員長
大阪大学大学院人間科学研究科
渥美 公秀